## 【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)

- A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: ややホーナである
- **D**: 不十分である

前年度 評価結果の概要

学校名

学習内容が「分かる」「力を伸ばすことができた」と感じている児童は9割を超える。職員の共通理解と共通実践を継続し、学習内容の定着を徹底させていきたい。

**- 友達を大切にし、「学校で楽しく過ごすことができている」と感じている児童は9割を超え、以前より増えてきている。いじめ事案等へは、早期に対応し、確実に行っていきたい。** 

・地域の伝統と文化を受け継ぐ体験活動に取り組んできたことで、子どもたちの多くが、ふるさと須古のよさを感じることができている。これまでの取組は大切にしつつも、新しい発想をもって、改善に努めていきたい。

・児童や学校のために献身的に支援をいただいており、感謝している。学校運営方針や目標、取組結果については、丁寧に説明できるようにしていきたい。

白石町立須古小学校

2 学校教育目標

正しく 優しく 元気よく

~須古大好きな子どもの育成~

3 本年度の重点目標

「学ぶ」ことの大切さを知り、「分かる」喜びと「できる」楽しさを感じられる教育活動を推進し、子どもたちの学習意欲と学力の向上を図り、自分(たち)の伸びや成長を実感させる。

② 子どもたちが「学校に来てよかった」「学校は楽しい」と感じられる活動を仕組み、達成感・充実感を味わわせ、自分たちで学校生活を改善し、向上させられたと実感させる。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価										
T 主流やAMIT 7日 MAXIT MAX										
(1) XABBI BASE	重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「学ぶ」ことの大切さ、「分かる」喜びと「できる」楽しさを感じられる教育活動を推進	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの 成果指標を達成した教師90%以上にする。 〇「分かったこと、できたことが増えた。」という児童90%を目指す。 ○「自分の力を伸ばせた。」という児童90%を目指す。	作戦』を充実させ、①授業改善②学習・生活習慣 づくり・家庭学習の向上③一人一台端末を活用し た授業改善に取り組み、一人年間2回以上の授業		・全職員が、学力向上対策を意識して主体的・対話的で深い 学びに同けた授業改善を進め、授業づびに取り組んできて いる。研究授業や授業を報策で一人年間の以上の授業の 脱そ行った。学習して勉強が分かったり運動(技)ができるようになってうれ」、実持ちになったりしたと、全児童が回答した。今後、保護者との連携を密にしながら、継続して授業改善を図っていきたい。	A	・全職員が学力向上対策を意識し、一人一台場末を活用しながら主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進あた。 2月に行ったアンケートでも、学習して勉強がかったり速動 (技)ができるようになってうれしい気持ちになったりしたと、ほ とんどの児童が回答した。授業参戦や各便が多名利用して、 家庭との連携を図り、「児童のやる気を引き出し、分かりやす い・授業をエ夫して行っている。」と90%の保護者が回答した。	A	・タブレットPCの活用や漢字前倒し学習、百ます計算等、基礎基本の学習内容の定着で学力の向上が図られている。 ・児童や保護者からのアンケート結果で良く推進できていると思います。	・学力向上対策コーディ ネーター ・研究主任
	◎地域を生かした体験活動の充実 (愛郷心の育成)	○「須古のよいところが分かり、伝えたいと思う。」児童の割合を90%以上にする。	・地域を生かした総合的な学習の時間や学校行事、学級活動での体験活動に取り組ませ、活動を 通して地域の「人・もの・こと」に関わらせる。	В	・地域の方との交流を通した体験活動や調べ 活動により、須古のよさに気付くことができ た。今後は、全職員で須古のよさを知り、その よさを発信していく取組を積極的に行うことが 大切である。	A	・各学年において、地域の方との交流を通して、様々な 体験活動や調べ活動を行うことができた。2月に行った アンケートでは、須古のよいところを知っている。」と回 答した児童が9496だった。また、「学校は須古のよさを 学ばせて指導している。」と回答した保護者が9896で、 学校の取組が周知できていると考える。	A	・いろいろな体験活動の機会を設けてあり、児 童や保護者の評価が高い。 ・地域の歴史・文化的遺産や財産を活用した 総合的な学習がどの学年でも実践され、成果 が上がっている。	<ul><li>・学力向上対策コーディ ネーター</li><li>・研究主任</li></ul>
●心の教育	他者への思いやりや社会性、倫理観や正義		・人権集会を年2回、平和集会を年1回行う。人権 に関する学級のめあてを決めて振り返りを行う。 ・なかよし活動を充実させ、けやきカードも効果的 に活用して児童の自己肯定感を高める。	A	・人権集会や平和集会、各学級での取組により、自分や友達のよいところを見付けることができた児童が905を超えた。今後も、友達を思いやり、楽しい学校をつくっていく意識を高めたい。	A	・人権集会や人権週間の取組により、「自分や友達のよいところを見付けることができた児童が90%であった。人権週間では、「きらりさんカード」を記入し、さらに友達のよいところを見付けることができた。	A	・人権学習と道徳学習での実践が生活に生きている。	•特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 の「自分や友達のよさを認め、仲良く活動する。」機会をつる。 の「学校に来てよかった。」「学校が楽しい。」と感じられる達成感・充実感の向上	の割合を増やす。	「いじめはいつでも、どこでもありうる」という認識に立ち、児童からの805等に対して、常にアンテナを高く、精度以保ち、予兆に対して即座に全体で、共有し対応する。 ・定期の「いじめ防止対策委員会」「共通理解の会」「アンケート」等で、児童の様子を全職員で共有し支援にあたる。 ・長期休業明けに「心と体の健康チェック」習慣を設け、児童に心身の不調等がないか把握し、家庭と共有・対応する。 ・(人権・週間・解剤リ活動」をはじめ教育活動全般を通して、児童が仲良く協力して取り組む場面において、活動の振り返りを行い、達成感・充実感を能わせるとともに、さらに良くしていこうとする意態を高める。	A	・児童アンケート調査で「自分や友達の良いところを見つけている」と回答した児童の割合 は、96%(友達のことを思いやり、学校で楽 しく過ごすことができている」と回答した児童 の割合は、91%であり、成果指標である「9 0%以上」を達成できた。学年末に向けて、き め細かな対応を行い、学校生活満足群の児 童の割合をさらに増やし、児童が希望をもっ て進級・進学することができるようにする。	A	・アンケートや日常の観察等で、「いじめはいっても、どこでも、どの子にも、起こりうる」という意識のもと、いじめにつながりうる些細な事案も察知しようと努めた。児童が相談しやすい環境づくりだけでなく、少しでも気に掛かる児童に対しては積極的に、個別に言葉を掛け、細かに対応してきた。また、共通理解の会を基軸にした全職員での対応を図ることができたこともよかった。「友達のことを思いやり、学校で楽しく過ごすことができている」と回答した児童の割合は、中間評価よりも高くなった。	A	・いじめ防止対策委員会での校長先生の報告により、全職員で意識化を図り、対応されていることが分かった。 ・不登校児童がいないということであり、正直驚いた。これも児童の意識や保護者、教職員の連携の陽と思います。 ・いじめについても、暗いイメージはなく、先生方の接し方や思いやり等、連携している姿が感じられました。 ・地域の住民は、校長先生から出されている学校だよりで取組や児童の様子がよく分かる。	・生徒指導部
	向けて意欲的に取り組もうとするための教		・けやキッズタイムを活用した構成的グループエンカウンターを継続して行う。 ・キャリアパズキーへの記入を定期的に行い、児童が現在の自分の夢や長所を明確にし、自身の変容を振り返る機会をもつ。・帰りの会や道徳の時間などに「いいところみつけ等の活動」を行い、児童のよいところを価値付ける。	В	・毎月1回の「けやキッズタイム」では、児童同士のつながりを大切にした構成的グループエンカウンターの取組を行うことができた。 ・キャリア・バスポートを活用し、児童自身の変容を振り返る機会をもっようにした。将来の夢や目標をもって学校生活を送っていると答えた児童の割合は85%だった。 ・教育活動の様々な場面において、全学級で児童のよいところ見付け等を行い、一人一人のよさを価値付けるようにした。	A	・年間を通して、児童同士のつながりを大切にした構成 的グループエンカウンター「けやキッズタイム」を、年間 を通して毎月行うことができた。 ・児童自身の学びの振り返りを大切にする機会をもつ ために、キャリアパスポートを定期的に記入し活用した。「得来の夢や目標をもって学校生活を送っている」 と答えた児童は1916に関えた。 ・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて取り組む ことができるように、今後も教育活動の様々な場面に おいて、一人人のよさの価値付けを行っていきたい。	A	・全体的に横や縦のつながりを意識した活動 や自他のよさを自覚させるための手立て等が 教育活動の中に位置付けられている。 ・校長先生のリーダーシップの下、先生方が 共通理解を図りながら子どもたちのために尽 力にるのが、よく伝わります。須古のために本当にありがとうございます。	・生徒指導部
		童90%以上を目指す。	・縦割り活動を活用した異学年交流を充実させ、よ さを認め合う活動を行う。 ・学級活動を通じて、係活動の創意工夫や、より良 い学校生活を送るための話合い活動などに取り組 んでいく。	В	・「なかよしタイム」(縦割り活動)を月1回行 い、交流を図った。 ・年度当初に「こんな学校にしたい」というめあ てを立て、意識しながら学級活動や話合い活動に取り組み、学期毎に振り返りを行った。	A	・「自分たちでつくる活動ができた。」「自分や 友達のよいところを見付けている。」と回答し た児童はどちらの項目も90%以上であった。 ・学級活動で話合い活動に取り組み、自分た ちの思いを実現させるために準備し実行する ことができた。	A	・感謝の集会では、型にはまらない自由発想的な発表、それぞれの学年の特色を生かした 出し物など興味がもてた。進行の運営委員に もう少し元気がほしかった。	•特別活動部
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の 育成」	●「健康に食事は大切である。」と考える児童9 0%以上を目指す。	・食への意識を高めるために、食育授業や健康 チェック調査・保健指導を実施する。	В	・「健康に食事は大切である」と考える児童が8 6%で90%以下であった。給食週間や栄養教諭 による指導を通して食への関心を高めていく。	В	・日々の食育指導や栄養教諭による指導で、給食週間の取 報を通して食の大切さを伝えた。児童アンケート調査・食事 の大切さが分い好を嫌いをせず食べる」と回答した児童 の割合は87%であった。食の大切さは理解でいるが、好き 嫌いなく食べることへの指導を継続して取り組んでいく。	В	・ICT教育の推進と並行して視力低下防止の 取組にも目を向け、力を入れてほしい。 ・食は食材を口で味わうものと同時に、頭で食 する、心で食するを併せて指導したい。	・特別活動部
	○運動習慣の定着化		新体力テストの結果を保護者へ知らせ、体力向上への取り組みに理解を求める。 スポーツチャレンジへの取り組みを奨励し、学級 や縦割り班での取組状況や結果を定期的に周知 する。 ・休み時間の外遊びを励行する。	В	・新体カテストの結果を配布し、児童の現状について 周知した。 ・スポーツ集会やジョギング・ウォーキング集会を実施 し、異学年が楽しんで運動する機会を設ける。 ・これから寒い時期になるが、引き続き外遊びを励行し ていく。	В	・「体育の時間や休み時間など、体を動かして楽しるごしている」と答えた児童の割合は前回を296下回る8996であった。果なり、外遊びを控える児童が増えたためと考えられる。 ・「なかよし活動」や「みんなで遊ぼう」などで、学校全体でも、学級でも、体を動かす活動に取り組むことができた。	В	・体育学習の充実やスポーツ行事の取組、スポーツチャレンジ、外遊びの奨励等、子どもが体を動かしている場面をよく見ることができた。	・特別活動部
●業務改善·教職員の働き 方改革の推進	の削減		- 週案に退勤時刻を記入させたり定時退動ボード を活用させたりすることで業務の見通しをもたせ る。	В	・定時退勤ポードの活用や業務の効率化についての職員研修を実施したことで見通しをもった働き方ができる職員が増えてきた。	A	・学級担任の不在時や学校環境整備支援のために、 級外職員の能力を十分に活用することで、業務の効率 化につなげることができ、学校を活性化させることがで きた。	A	<ul><li>・業務の効率化に向けた職員の協力体制ができている。</li><li>・全職員のみなさんが、働き方を意識し、取組を計画的にされている様子が伺えてよかった。</li></ul>	•管理職
	○働き方に関する教職員の意識改革と実践	●働き方に関して、改善したという職員90%以上 を目指す。	・自己目標の中に必ず、働き方改革に関する取組を入れる。 ・働き方に関して研修会を行い、意識改革を図る。 ・定時退勤日の設定。	В	・自己申告目標や面談では、働き方改革についての職員の意識は高まってはいるがまだ十分ではない。 の収会会を画別開催し、働き方についての情報を共有 したことを職員連絡会の際に提案したり常時の指導や 支援をしたりすることができた。	A	・全職員(100%)が、自己目標の中に働き方を意識した取組を計画した。また、職員研修では、取組方法や 計画立業を示し、実際に、ブランを作成することで意識 化を図った。 ・職員が積極的に職員室の戸締まりをする等、働き方 の意識が高まり、時間外在校時間が減ってきた。	В	・些細なことでも、できることから取り組むこと により、個の意識化が図られているように思 う。	-管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
	重点取租		具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (數值目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の充実	○教師の専門性と意識の向上	〇保護者や関係機関と連携を図りながら、子 どもの特性に応じた支援を行っているという 保護者の割合を90%以上にする。	<ul><li>・毎月の「共通理解の会」実施</li><li>・巡回相談やスクールカウンセラーの活用</li></ul>	В	・保護者や関係機関と連携を図りながら、子どもの特性 に応じた支援を行ってきた。今後も継続して取り組むこ とで、専門性の向上に努めていく。	A	<ul> <li>西部教育事務所の指導主事に来校いただき、因り感 を抱えている児童への具体的な支援について、アドバ イスをいただいたり、研修会に積極的に参加したりする ことで、教師の専門性の向上に努めた。</li> </ul>	A	・通常学級でも特別支援教育の視点や配慮 が大いに必要でしょう。このことを捉えた実践 ができているようです。	・特別支援教育コーディネーター

## ●・・・県共通 ○・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

総合評価・ 次年度への展望 ・一校長先生のリーダーシップの下、先生方が共通理解を図りながら子どもたちのために尽力されているのが、よく伝わります。須古のために本当にありがとうございます。」の言葉を大切にしながら継続した取組を行う。 ・地域の伝統と文化を受け継ぐ体験活動に取り組んできたことで、子どもたちの多くが、ふるさと須古のよさを感じることができている。これまでの取組は大切にしつつも、新しい発想をもって、改善に努めていきたい。 ・児童や学校のために献身的に支援をいただいており、感謝している。学校運営方針や目標、取組結果についても、丁寧に説明することができ、高評価をしていただいた。